

UBC アジア図書館 50周年祝典式

暖かな日差しに包まれた3月5日、UBCアジア研究センター内の講堂で、アジア図書館創立50周年記念祝典式が行われ、同大学関係者や歴代司書など約130人が出席した。主賓には在バンクーバー日本国総領事伊藤秀樹氏ほか、アジア研究センターの建物を寄贈した三洋電機を代表して、三洋カナダ社長、寺川幸之（こうし）氏などが招かれた。



日本司書のシリン・エシュギ氏と三洋カナダ社長、寺川幸之（こうし）氏

本語コレクションに発展させた。戦前の日系新聞『大陸日報』（1908〜1941）のマイクロ版など日系移民資料も豊富なことから、日本から閲覧に訪れる研究者も多い。

現在日本司書のシリン・エシュギ氏とアシスタントの黒岩千恵氏は「江戸時代の地図のコレクションから最新の婦人公論まで揃っていますので、大学以外の人にも気軽に利用してもらいたい」と話している。

1981年に日本庭園に隣接した敷地に再建された。トロントからかけつけた三洋カナダの寺川氏はこの日、三洋館のUBC寄贈に関する当時の書簡往還に携わった元アジア学科日本語講座のジャン・ハウズ教授と対面し、最初に寄贈計画を提案し、その実現に努力した故飯田昭太郎教授（仏教学）や当時の日加関係者の苦労話を興味深く聞き入った。子どもの頃、大阪万博を訪れている寺川氏は「赴任先のカナダに当時のパビリオンが再建されていたとは知りませんでした」と感慨深い様子で語った。

歴代の司書が列席

祝典式冒頭でUBC図書館長のイングリッド・パラント氏がアジア図書館初代主任司書のトンキン・イン氏、初代中国司書イム・シエ氏、初代日本司書の権並恒治氏（1969〜2002勤務）を紹介。続いて現アジア図書館主任司書のエレナー・ユエン氏、アジア学科大学院生代表のロバン・トレノ氏、歴史学科学准教授のヘンリー・ユースらがスピーチを行った。

この中で文献収集にまつわる話や、郷土資料保存とそのデジタル化、利用者向けスペースの拡張など今後の課題も語られた。

日本蔵書は15万冊以上

アジア図書館には、中国、日本、韓国、ヒンディ、ウルドゥ、パンジャビ、サンスクリット、チベット、インドネシアの9カ国語による、総計58万冊が所蔵されている。

日本文庫は1959年に、UBC図書館がカナダにおける日本政府刊行物の国際受託図書館に指定されたことから始まる。日本蔵書は現在15万冊を越え、北米でも十指に数えられる日

「70大阪万博の三洋館」アジア研究センターの建物

が、1970年の大阪万博の三洋館だったことを今日知る人は少ない。同館は万博終了後UBCへ国際親善、日加友好の絆として寄贈され、

祝典式後のレセプションでは、歴代の司書と大学関係者が久々の再会を喜び合っている。アジア学科の卒業生が現役学生と歓談の時間を持った。（取材ルイーズ阿久沢）

UBC アジア図書館
1871 West Mall, Vancouver,
B.C. V6T 1Z2
電話 604-822-2427
www.library.ubc.ca/asian/

「大阪万博は子どもの頃行きましたよ」と話す寺川氏



「70大阪万博の三洋館だったアジア研究センターの建物」



アジア図書館50年の歩みを語るUBC図書館長イングリッド・パラント氏